

鏡野町総合計画審議会（第2回）議事録

日時：令和7年6月27日（金）

午後1時30分～

場所：鏡野町役場3階 特別会議室

1 開会

2 あいさつ

瀬島町長：こんにちは。第2回審議会にお集まりいただきありがとうございます。地区懇談会を実施させていただき、参加いただいた方もいる。ありがとうございます。

共通課題として人口減少、少子高齢化問題についてが多かった。人口減少が及ぼす問題は多岐に渡り、大きな問題である。みなさんと考えていきたい。農業や災害関連についても心配がされていた。早急に対策が必要であり総合計画でも盛り込んでいく。また財政について心配される声も多かった。本日は基本構想部分、将来像についていろいろとご意見をいただきたい。

B&G財団から防災機器の調停調印式があった。備蓄倉庫ができあがり、備蓄品もそろった。ご紹介とさせていただく。またいろいろとご意見をいただきたい。

3 協議事項

①第1回審議会での指摘事項について

～事務局より資料1について説明～

中村会長：なにかご意見ご質問はあるか。

近藤委員：前回資料から差し替えということによいか。5番に観光というのがあったがずれてくるということによいか。

事務局：その通りである。

②基本構想（案）について

～事務局より資料2（前半）について説明～

中村会長：27Pまでで、なにかご意見ご質問はあるか。

前田委員：都市公園の利用者はどのくらいか。年代についても教えてほしい。声を聞くとあまり利用がないように聞いている。

山根委員：いまのところ人数を数える術がないが、かなり多いことは確かである。正確な人数はわからない。こどもが多い。人に寄るが、毎朝散歩をされるお年寄りもいる。

前田委員：木陰が無いので、これからの季節は利用がへると思う。

椋代委員：孫がいるのでときどき行くが、中の駐車場がほぼいっぱい、保育園年中くらいから小学生がおとうさんとボール遊びをされている。暑いときは小さなテントを持参している。日陰のあるベンチで過ごされている方も多。1日家で子どもを見られる方は1～2時間子どもを遊ばせている。

中村会長：将来像などにご意見はないか。

宇佐美委員：一番大きな問題は鏡野病院かと思う。進捗状況やお金の問題、診療料が増えるのかという話など、町民が関心を持っているかと思うので、説明がほしい。

中村会長：この後の各論部分で話をしてもらったほうがよいかもしれない。
基本的な方向性は異論ないということでよいか。

土地利用計画についても、2次計画からの大きな変化はないということでよいか。

事務局：方針については、大きく変わらないが、より詳細に具体的に示すようにしている。
都市計画マスタープラン、立地適正化計画と整合をとるために内容を加味して作成している。

中村会長：7月の会議の際には変更部分等も確定していると考えてよいか。次回は確定版としての説明があるか。

事務局：その通りである。

中村会長：地域方針に応じたまちづくり方針も変わっていないということでよいか。

事務局：地区懇談会やまちづくりワークショップで内容が決まってくるため、次回の審議会にはお示しできるかと思う。

～事務局より資料2（政策1）について説明～

中村会長：政策1について、なにかご意見はあるか。

学校教育の充実となっているが、中学生の要望で集まる場が求められている。青少年健全育成や学校教育の外の問題についても入れるべきではないか。

事務局：青少年健全育成について、確かに小中学生に関する事業として移してもよいものもある。その施策はなくなったが、学校教育の充実等に振り分けて実施していく予定である。

北山副会長：こどもの支援について、学校給食の無償化などもあるが、町としてどこまで支援していくのか。

事務局：学校給食無償化については、議会でも質問いただく。町としては国の動向を見守りながらと回答させていただいている。今の段階ではいつからできるなどのお答えはできない。事業によって異なるが、高校・大学で支援が必要な場合もあるため、広くこどもと捉えている。こどもの育ち支援の充実など、新しい施策についての具体的な取組については、今後担当課と具体的に考えていきたい。

金島委員：こどもがどんどん減ってきていて、出生率やこども自体を増やす対策は入ってこないか。

事務局：移住定住人口対策の推進部分で引っ張っていくが、全体の施策としてつながってくるものと思っている。

金島委員：鏡野町だからこどもが育てやすい場所である、鏡野町で育てたいと思える施策として充実させられれば新しく作る意義があると思う。

影山委員：学校教育の充実については、町で充実した支援をいただいているが、財政面の心配が耳にはいる。これからもなんらかの形で支えていただきたい。放課後デイサービスなども新しくできているが、学校外での居場所なども充実するとよいと思う。

事務局：放課後に集まれる場所について、子育て支援センタースマイルで中学生が放課後の居場所として集まれるようになっている。お手紙も家庭に届いている。

小林委員：家庭での育ちにも支援がいくようになれば良いと思う。

～事務局より資料2（政策2）について説明～

中村会長：政策2について、なにかご意見はあるか。
宇佐美委員からあった病院についての回答はあるか。

事務局：場所は消防西署を予定している。開院は令和10年5月を予定している。資材の高騰で建設費が上がっている。見直しながらも検討を進めている。診療科は現所と同じ6科で、医師不足の状況もあるが、大学病院等も連携して対応してく予定である。

中村会長：新しい施策の中に含まれるか。

事務局：2次までは充実という言葉だったが、推進に改めている。

前田委員：障害者福祉の推進というのは具体的にどういうことをされているか。

事務局：事業内容としては、成年後見制度、相談支援、障害者医療など。メニューとしては30以上あ

る。

前田委員：サービスとして足りている状態であるか。

事務局：後期計画の各課評価の達成度については、Bであった。施策評価をしたものでは、引きこもり支援の方への相談支援、ネットワークづくりの講演会、虐待対策、サービスの情報提供などを行った。今後、引きこもりサポーターの養成を予定している。資料2の11Pにあるように、住民アンケートの結果として重要度は高いにも関わらず満足度が低いという結果になっている。

中村会長：前回の資料5という資料では、いまの施策に関する記載がある。新たな課題として、満足度が低い項目であるとしており、アンケートの中でも障害者の就労支援や重層的支援大祭の整備が求められている。まだまだ必要な支援があるといえる。

田中委員：めざすまちの姿にあるが、近年社会福祉政策界限では、地域共生社会という言葉を使うことが多い。ただ福祉を受けるだけでなく、もてる力を発揮して、お互いに力を出し合うということが重要とされている。地域共生社会という言葉を使っていても良いのではないか。個別分野の個別事業の内容には答えにくいかと思うが、高齢者や障害者の個別計画とどう連携するかが重要かと思う。障害者福祉に課題が残るのは、町独自の福祉サービスの実施に取り組んでいかなければ太刀打ち行かなくなっているのではないか。財源の確保という課題があると思う。事業所も厳しい運営状態の中、どのようにサービスを充実させ、担い手を確保していくかを考えていく必要がある。個別計画と密接な連携を図って進めるべき総合計画であると住民に理解いただく必要がある。

棕代委員：国の施策を担うだけでは個別満足度が上がらないという話だったかと思うが、引きこもりサポーター養成に参加したり、認知症介護者で集まって話をする会など、個別の取組もしている印象がある。なぜ満足度が上がらないかわからない。

～事務局より資料2（政策3）について説明～

中村会長：政策3について、なにかご意見はあるか。

近藤委員：前回までの施策での水産業を観光にもっていくとのことだが、水産業と観光を結び付けていく、水産業とはひらめだけという捉え方で良いか。水産業と載せておいた方が、地域的な理解としても良いのではないか。観光に入れるという話も納得はできるが検討いただきたい。

事務局：今現在水産業の振興が2事業しかなく、観光のひとつと位置付けて力を入れていく方がよいのではないかという考えもある。地勢的に水産業としての認知が無い場合もあり、特産品のひとつとして活かしていければという考え方。

中村会長：一次産業としてまとめる方法もあると思う。検討の余地はあるのではないか。

宇佐美委員：なかなか前に進まないというのが現状で、特に観光はこれからやるぞというときに納涼祭

などの補助金もなくなった。商工業では、企業誘致が大きなのところと考えている。町としてはどういう風に考えられているか。近辺では勝央町で相当な企業は入り、税収が上がっている。税収をどう増やしていくかが大きな問題。

事務局：企業誘致については、後ほど移住定住人口減少対策の推進に雇用の確保という形で関わってくる。工業団地がいっぱいであり、県と調整して検討をしている。県に働きかけながら進めなくてはいけない分野であり、具体的な話はできていない。
地域懇談会の中でも、人口減少のために働き口の確保が意見として出ていた。広域的に考えて、企業誘致を考えていかなければいけないと考えている。

中村会長：住民アンケートの中でも雇用のことが挙げられていた。縦割りの農業、林業、商工業に収まらない横割りの話で、産業面での横割りの話はどこにするのだろうか。横割りの発想を入れる必要がある。雇用やライフワークバランスなど、横割りの考え方が必要。

宇佐美委員：今後もっと大きな風力発電の問題が出てくるかと思う。住民の考えも様々あるが、町として風力発電をどうするのかを決めていかなければいけないのではないか。方針が決まったらそれでいくしかないと思う。腹をくくって、決断をしないといけないと思う。

中村会長：政策5に関わる意見であろうかと思う。

金島委員：商業、観光が1ページになってしまう中で、水産業がどちらかに入るのは構わないと思うが、観光は観光、商業は商業で、稼げるまちにしていかなければならない。この二つは一緒にしない方がよいと考える。

～事務局より資料2（政策4）について説明～

中村会長：政策4について、なにかご意見はあるか。

山根委員：青少年の健全育成の項目を政策1に言葉として入れていても良いのではないか。

事務局：検討させていただく。

～事務局より資料2（政策5～7）について説明～

中村会長：政策5～7について、なにかご意見はあるか。

公共交通機関などは要望のあった項目であろうかと思う。

近藤委員：政策7で職員の人材育成が消えて、健全な行財政運営の充実となっている。職員の人材育成はここに載せず、行政の中だけで行ってもらっても良いが、健全な行財政運営とどう結びつくのだろうか。無理やり感がある。

事務局：事業そのものを無くすわけではなく、人材育成自体は進めていくが、少子高齢化や人手不足も進む中で効率的な行政運営が必要になってくる。人事評価制度と合わせてやっているの、

絡めてやっていく。優秀な人材を育成し、A I 等も活用しつつ、効率化も図ることにつながってくるものもある。

中村会長：こういった意見が出ていることは事実であるので、見出しの検討など対応いただきたい。

田中委員：人材育成と行財政運営をくっつけることで、考えられるデメリットについても検討する必要があるのではないかと。健全な行財政運営の言葉として重みがあるので、職員のサポートも考えて改めて考えていただきたい。

中村会長：政策5、6は生活に密接する重要な項目であるが、委員からの意見はあるか。それでは資料2の全般について審議を行うことができた。また本日の内容を踏まえて次回確定に近いものを検討いただくことと思う。

田中委員：政策2について、子育て支援の充実が消えていると思うが、こどもの柱を新たに作って外していることはわかるが、近年全国的にいじめや虐待、ヤングケアラーが増えており、こどもの権利が脅かされる状況がみえている。児童福祉部分をどうカバーできるかが重要。新設されるこどもの柱にこどもの権利をまもる取組がピンポイントにかみ合うものがみえない。福祉的なものは前回のように残して、児童福祉の充実としていただいても良いのではないかと。

③その他

4 連絡事項

～事務局より連絡事項について説明～

中村会長：スケジュールのこともある。皆様方もご理解ご協力をお願いしたい。

5 閉会

北山副会長：貴重なご意見ありがとうございます。次回会議にまた意見をいただきまわりたい。昼に梅雨明けのニュースもあったが、非常に暑くなるため、水分をとり、熱中症に気を付けていただきたい。